平成 19 年 5 月 11 日

各 位

会社名 株式会社キムラタン
 代表社名 取締役社長 川床 博
 (コード番号: 8107 大証第 1 部)
 問合せ先 取締役 浅川岳彦
 (TEL 078-242-4500)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、業績予想を下記の通り修正しましたのでお知らせいたします。

1. 平成 19 年 3 月期業績予想数値の修正

(1) 連結 (平成 18 年 4 月 1 日～平成 19 年 3 月 31 日) (単位: 百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	7,940	△470	△610	△160
今回修正予想 (B)	7,083	△767	△925	△543
増減額 (B - A)	△857	△297	△315	△383
増減率 (%)	△10.8	-	-	-
(参考) 18 年 3 月期実績	5,019	△1,910	△2,168	△2,768

(2) 個別 (平成 18 年 4 月 1 日～平成 19 年 3 月 31 日) (単位: 百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	6,760	△560	△680	△220
今回修正予想 (B)	6,337	△861	△1,010	△619
増減額 (B - A)	△423	△301	△330	△399
増減率 (%)	△6.3	-	-	-
(参考) 18 年 3 月期実績	4,915	△1,834	△2,088	△2,691

2. 修正の理由

当期における連結業績は、売上高 70 億 83 百万円 (前年同期比 141.1%)、営業利益△ 7 億 67 百万円 (対前年同期 11 億 42 百万円の改善)、経常利益△9 億 25 百万円 (同 12 億 42 百万円の改善)、当期純利益△ 5 億 43 百万円 (同 22 億 24 百万円の改善) となる見通しであります。前期に対しては、売上拡大、利益改善を果たしたものの、第 4 四半期において計画を大きく下回る状況となり、通期業績は前回予想を下回る見通しであります。

修正の理由につきましては、事業セグメント別業績予想及び概況を踏まえ以下に記載の通りであります。

	アパレル事業		エレクトロニクス事業	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益
前回発表予想 (A)	5,400	△400	2,540	60
今回修正予想 (B)	5,436	△396	1,647	△128
増減額 (B - A)	36	4	△893	△188
増減率 (%)	0.7	-	-	-
(参考) 18 年 3 月期実績	4,041	△1,232	977	△286

アパレル事業につきましては、前期に引き続きベビープラザの出店加速を推進したことや、GMS および専門店への卸販売が引き続き好調に推移したことにより、売上高は概ね予定通りの 54 億 36 百万円（前年同期比 134.5%）となる見通しであります。営業利益につきましては、△ 3 億 96 百万円となる見通しで、上半期のマイナスの影響により通期では赤字となりますが、下半期単独では、売上総利益の拡大および経費の圧縮により 15 百万円の黒字となる見通しであります。

一方、エレクトロニクス事業につきましては、通期売上高 16 億 47 百万円（前年同期比 168%）、営業利益△1 億 28 百万円（対前年同期 1 億 58 百万円の改善）となる見通しでございます。前回予想に対しては、売上高で約 8 億 93 百万円減少、これにともなう売上総利益の低下により営業利益で約 1 億 88 百万円の減少となる見込みであります。

当期は、従来の AV 関連製品の製造販売、子会社オプトの設計・開発受注のほかに、独自技術であります超小型広角カメラの製造販売、およびブルーレイ業界向けディスク検査装置の製造販売等を見込んでおりました。

うち、第 4 四半期において出荷予定しておりました AV 製品が、一部得意先都合によって出荷延期のやむなきに至り、売上高約 50 百万円が減少いたしました。

超小型広角カメラにつきましては、展示会出店時の好評から大小各社より多くの引き合いを受け、現在数社との取引契約締結に至っております。その後も継続して大手メーカーおよび大学から問い合わせを多数受けている状態にあり、今後とも当事業の主力となる見通しであります。しかしながら、当期は各得意先における当社サンプル評価の工程や各社の要望による仕様変更および仕様追加に予想以上の時間を要しました。当第 4 四半期においては、大手音響メーカー製システムに対するカメラ部分の受注納品が開始され今後も継続受注していく予定ですが、多くの案件が当期の納品確定には至りませんでした。こうした遅れから超小型広角カメラ関連において約 3 億円の売上減少をきたしました。

また、ブルーレイドライブ関連の設計・開発受注により継続的に成果を積み上げて参りました当社子会社オプトは、技術力に対する高い信頼から、当該発注会社よりブルーレイディスクの検査装置製造を受託いたしました。この装置はブルーレイ関連の業界各社が、メディア製造工程、関連機種製造工程において必要不可欠なものであり、当社は当期、当該発注会社をはじめとする業界各社への売上を主に第 4 四半期において見込んでおりました。しかしながら、主要パーツの一部に調達遅れをきたし、全体としてのスケジュールが 2 ヶ月以上遅延する結果となり、そのため当期は第 4 四半期において当該発注会社に対し十数台の納品を完了するにとどまりました。その後他社からも継続して発注を受けておりますが、この件による当期の売上減少は約 5 億 40 百万円に至っております。

事業立ち上げより 3 期を経過いたしました当社エレクトロニクス事業は、当初段階の先行投資と売上過少による大きな赤字体質を、前年同期比 168%の売上増大および独自製品の市場投入開始によって収斂しつつ、黒字化へむけてアパレル事業に引き続き進行いたしております。しかしながら、当期は、上記要因から中間期予想より売上高で約 8 億 93 百万円減、営業利益 1 億 88 百万円減の下方修正となる見通しでございます。

※上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因により当該予想値とは異なる結果となる可能性があります。

以上